

小児看護学実習（Ⅰ・Ⅱ）

小児看護学実習（Ⅰ）

〔保育所（保育園）〕

実習目的

1. 健康な子どもの成長発達過程を理解し、成長発達段階に応じた保育・教育に参加する。
2. 子どもと家族の健康問題と、地域社会における子育て支援の役割を理解する。

実習目標

1. 健康な子どもの成長発達過程、および個別性、性差を理解する。
2. 成長発達段階に応じた保育・教育に参加する。
 - 1) 発達段階に応じたコミュニケーションを図り、子どもと人間関係を構築できる。
 - 2) 発達段階に応じた基本的な生活習慣(食事・排泄・睡眠・更衣など)の獲得と自立に向けた援助を理解できる。
3. 看護専門職としての視点で成長発達段階に応じた援助を考察できる。
 - 1) 健康な子どものフィジカル・アセスメントができる。
 - 2) 園児の安全を守るために発達段階に応じた事故防止と感染予防の援助ができる。
 - 3) 地域社会における、家族関係を考察できる。
4. 子どもが成長発達する過程で学習する集団保育・幼児教育の内容、方法、技術を学ぶ。
5. 子どもにとっての遊びの重要性を理解し、成長発達（個と集団）を促すかわりができる。
6. 日々の課題を明確にし、自己の発達と継続的な学習能力を身につける。

実習期間および実習時間

期 間 : 2019年7月～2020年2月（臨地2日間）

時 間 : 原則として9時～16時（施設により異なる）

実習施設

臨地実習施設一覧参照

実習方法

1. 実習の進め方

1) オリエンテーション

- (1) 各保育施設を訪問しオリエンテーションを受ける（オリエンテーションの日時等については、グループリーダーが調整する）。また、施設オリエンテーション日から実習日までの期間が数ヶ月に及ぶ場合は、直前に変更点がないか必ず確認する。

(2) 学内における直前オリエンテーションは、原則として実習前週金曜日 15 時より行う。

大学 HP に掲載している実習関連の資料をダウンロード、熟読して出席すること。

- 2) 小児看護学実習 (I) の目的、目標に沿って、臨地実習に意欲的に取り組む。
- 3) 配置されたクラスを中心に、成長発達段階に応じた保育や教育について学ぶ。
- 4) 保育所 (園) で催される行事に参加し、積極的に子どもとふれあう。
- 5) 施設において毎日カンファレンスを実施 (30 分以内) する。
- 6) 保育所での健康教育実施を希望する者は、事前に計画書を作成し教員からの指導を受ける。
ただし、教員からの指導は最高 3 回までとし、それまでに教員から許可を得られない場合、健康教育の実施はできない。

2. 週間実習計画と内容

	曜日	実 習 内 容	
第 1 週	月	実 習	<ul style="list-style-type: none">・ オリエンテーション・ 日常生活の観察・ 情報収集とフィジカル・アセスメント・ 生活自立への援助 (食事、排泄、睡眠、清潔)
	火	実 習	<ul style="list-style-type: none">・ 保育所 (園) の教育、行事への参加 (遊びやコミュニケーション)・ リスクマネジメント (事故防止)・ カンファレンス

3. 実習記録

- 1) 実習計画は、保育所指導者に提出し時間等の調整をする。
- 2) 実習記録は、翌日保育所指導者に提出し指導を受ける。
- 3) 実習記録は、表紙から様式番号順に綴じ (カンファレンス記録はリーダーの実習記録にまとめる)、第一週水曜日の朝に小児看護学実習 (II) の担当教員へ提出する。

4. 実習評価

- 1) 小児看護 (I) 実習の実習評価表の項目に沿って総合的に評価する。
- 2) 遅刻、早退は 2 回で 1 日の欠席扱いとする。原則として補習実習は行わない。

実習を行う上でのその他留意事項

- 1) 自己の健康については、十分留意し環境調整を含めて管理する。毎日健康調査表に記入し、多少の異変であっても必ず教員へ連絡し出席可否の判断を仰ぐ。
- 2) 収集した情報の保全、管理を厳守すること。
- 3) 服装は大学指定のトレーナー (上下)、大学から貸出すエプロンに自分の名札を縫いこみ着用すること。

小児看護学実習（Ⅰ）記録

〔保育所・保育園〕

実習場所			
実習期間	年 月 日	～	年 月 日
大学名	九州看護福祉大学 看護学科		
学籍番号		氏名	
担当教員名			

小児看護学実習(Ⅰ) 評価表
(保育所・保育園)
学生自己評価

実習場所 _____ 学籍番号 _____
実習期間 年 月 日 ~ 年 月 日 学生氏名 _____

項目	行 動 目 標	配点	評価
実践	① 子どもの権利の概念を理解できる	5	
	② 子どもの社会的環境、集団の意義を理解し行動できる	5	
	③ 健康な子どもの心身のアセスメントができる	5	
	④ 子どもの成長発達段階に応じたコミュニケーションができる	5	
	⑤ 子どもの心身の状態をアセスメントしながら日常生活習慣の援助ができる	5	
	⑥ 子どもの成長発達段階に応じた遊びの援助ができる	5	
	⑦ 子どもの安全を考えた環境整備ができる	5	
	⑧ 保育・養育チームの一員であることを自覚し的確な時期に正確な報告ができる	5	
	⑨ 実習の目的・目標にそった予習・復習を行い実習できる	5	
	⑩ 実習にふさわしい態度で臨むことができる	10	
カンファレンス	① カンファレンスの目的・必要性を理解しカンファレンス技法を学習し、実践できる	5	
	② テーマの選択が実習目標に添っている	5	
	③ 論理的に考えを述べる事ができる	5	
	④ カンファレンスの運営を積極的に行い今後の学習に活用できる	5	
記録	① 根拠となる客観的な事実を用いて書く事ができる	5	
	② 文献を活用することができる	5	
	③ すべての提出物の期限を守ることが出来る	10	
管理体制調	① 自己の健康管理ができ、体調不良時に報告ができる 遅刻 日 ()時間 早退 日 ()時間	欠席 日 5	
学生自己評価(4項目について)		総合得点	
担当教員			印

小児看護学実習（I）評価表
 （保育所・保育園）
 臨地実習指導者評価

実習場所

学籍番号

実習期間 年 月 日 ~ 年 月 日

学生氏名

項目	行 動 目 標	配点
実 践	① 子どもの権利の概念を理解できる	5
	② 子どもの社会的環境、集団の意義を理解し行動できる	5
	③ 健康な子どもの心身のアセスメントができる	5
	④ 子どもの成長発達段階に応じたコミュニケーションができる	5
	⑤ 子どもの心身の状態をアセスメントしながら日常生活習慣の援助ができる	5
	⑥ 子どもの成長発達段階に応じた遊びの援助ができる	5
	⑦ 子どもの安全を考えた環境整備ができる	5
	⑧ 保育・養育チームの一員であることを自覚し的確な時期に正確な報告ができる	5
	⑨ 実習の目的・目標にそった予習・復習を行い実習できる	5
	⑩ 実習にふさわしい態度で臨むことができる	<u>10</u>
カン ファ アレ ンス	① カンファレンスの目的・必要性を理解しカンファレンス技法を学習し、実践できる	5
	② テーマの選択が実習目標に添っている	5
	③ 論理的に考えを述べる事ができる	5
	④ カンファレンスの運営を積極的に行い今後の学習に活用できる	5
記 録	① 根拠となる客観的な事実を用いて書く事ができる	5
	② 文献を活用することができる	5
	③ すべての提出物の期限を守ることが出来る	<u>10</u>
管 理 調	① 自己の健康管理ができ、体調不良時に報告ができる 欠席 日 遅刻 日 ()時間 早退 日 ()時間	5

臨地実習指導者総合評価

臨地実習指導者

印

担当教員

印

小児看護学実習（I）評価表
（保育所・保育園）
教員評価

実習場所

学籍番号

実習期間

年 月 日 ～ 年 月 日

学生氏名

項目	行 動 目 標	配点	教員 評価
実 践	① 子どもの権利の概念を理解できる	5	
	② 子どもの社会的環境、集団の意義を理解し行動できる	5	
	③ 健康な子どもの心身のアセスメントができる	5	
	④ 子どもの成長発達段階に応じたコミュニケーションができる	5	
	⑤ 子どもの心身の状態をアセスメントしながら日常生活習慣の援助ができる	5	
	⑥ 子どもの成長発達段階に応じた遊びの援助ができる	5	
	⑦ 子どもの安全を考えた環境整備ができる	5	
	⑧ 保育・養育チームの一員であることを自覚し的確な時期に正確な報告ができる	5	
	⑨ 実習の目的・目標にそった予習・復習を行い実習できる	5	
	⑩ 実習にふさわしい態度で臨むことができる	<u>10</u>	
カン ファ アレ ンス	① カンファレンスの目的・必要性を理解しカンファレンス技法を学習し、実践できる	5	
	② テーマの選択が実習目標に添っている	5	
	③ 論理的に考えを述べる事ができる	5	
	④ カンファレンスの運営を積極的にを行い今後の学習に活用できる	5	
記 録	① 根拠となる客観的な事実を用いて書く事ができる	5	
	② 文献を活用することができる	5	
	③ すべての提出物の期限を守ることが出来る	<u>10</u>	
管 理 調	① 自己の健康管理ができ、体調不良時に報告ができる 遅刻 日 () 時間 早退 日 () 時間 欠席 日	5	
教員総合評価		教員評価	点
		担当教員	印

小児看護学実習(Ⅰ) 実習記録

学籍番号：

施設名：

(保育所・保育園)

氏名：

年 月 日 曜日	実習目標：	
対象園児（ ）歳 （男・女）児		
本日の実習計画	実施、観察できた発達特徴	評価および考察
<p>日課の流れに沿った計画を具体的に記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィジカル・アセスメント ・食事 ・排泄 ・遊び ・睡眠 ・日常生活のしつけ ・その他 <ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネジメント <ul style="list-style-type: none"> { 健康管理 { 衛生管理（感染防止） { 安全・事故防止 	<p>※最低二人について観察、援助、コミュニケーション等で工夫した点やその結果などを、時系列に沿って記入する。</p>	<p>※発達段階によるアセスメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠城寺式分析的発達検査 ・デンバー式発達スクリーニング検査 <p>※男女比によるアセスメント</p> <p>※適宜、文献を使用し考察する。文献は、様式枠外に記載する。</p>
実習内容の振り返り：		
指導者の意見：		
		臨地実習指導者氏名 印

臨地カンファレンス記録（第 回）

日時	年 月 日 曜 時 ~ 時	実習場所
出席者	(指導者)	
	(学生)	
カンファレンステーマ：		
テーマを選択した理由：		
<p><記入方法> グループの話し合いの流れを発言の順番にまとめて記入すること（誰が、どのような発言をしたのかの記入は不必要）。</p> <p><記入する順番></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グループでの話し合いの結果 2. まとめ 3. 臨地実習指導者（スタッフ）のコメント ※重要なので、書き漏らすことがないようにする。 4. 担当教員のコメント 		

小児看護学実習（Ⅱ）

実習目的

健康障害をもつ子どもとその家族の看護について小児看護学Ⅰ・Ⅱで学んだ知識および技術を、臨地にて実践し統合する。

実習目標

1. 子どもの人権を尊重し、ライフサイクルの中での小児期を理解する。また成長発達を促すための看護、子どもと家族のQOLの維持・向上に資する看護を考えることができる。
2. 対象の成長発達段階・健康状態に応じたコミュニケーション技能と、家族を含めた対人関係能力が必要なことを学ぶ。
3. 子どもの成長発達段階・健康の状態に応じた、日常生活の援助を考えることができる。
4. 小児医療に必要な治療・検査・処置の意義と方法を理解し、それを受ける子どもと家族の安全・安楽・安心に必要な援助を理解する。
5. 小児看護に必要とされている、患児と家族中心看護（patient and family-centered care）を理解する。
6. 子どもを取り巻く地域・医療・保健・福祉・教育の連携を理解し、協働しながら小児看護の役割と独自性を考察できる。
7. 子どもと家族に必要な社会資源・福祉サービスを理解する。
8. 自己の課題を明確化し、小児看護専門職としての4つのskills<①Critical Thinking ②Communication ③Assessment ④Technical Skills>を継続的に学習する。

実習期間および時間

期間：2019年7月～2020年2月（臨地6日、学内2日）

時間：原則として9時00分～16時00分

実習施設

臨地実習施設一覧 参照

実習方法

1. 実習の進め方
 - 1) 小児看護学実習（Ⅱ）の目的、目標に沿って各自事前学習を行っておく。
 - 2) オリエンテーション
 - (1) 学内において小児看護学実習全体オリエンテーションを行なう。
 - (2) 直前オリエンテーションは、原則として実習の前週金曜日15時より担当教員が行う。
大学HPに掲載している実習に関する資料をダウンロードしたものを熟読し、全体オリエンテーションで配布した資料、事前学習、健康調査表を持参すること。
 - 3) 受け持ち患児が決定した後、情報収集・アセスメント分析により看護問題を抽出する。抽出された看護問題を統合し、共同問題、看護診断、看護問題として整理する。（関連図と看護問題リストの作成を通して統合する）

- 4) 優先順位の高い問題 2 項目以上について、看護計画を立案する。
- 5) 看護計画に沿って実践し、評価、考察を行う。必要時、看護計画の修正、追加を行う。
- 6) 最終的に、看護目標の達成について評価を行う。
- 7) 臨地カンファレンス
 - (1) デイリーカンファレンスは、事前にテーマを設定し 30 分程度実施する。(臨地指導者に時間と場所を確認する)
 - (2) 中間カンファレンスは第 1 週の最終日、最終カンファレンスは第 2 週の臨地最終日に実施する。発表資料は実習記録とし、別の資料作成は行わない。資料の発表する部分は、他者にもわかるように付箋・マーカー等で明示する。
 - (3) 臨地カンファレンスの記録(様式Ⅱ-11)は、グループリーダーが保管し、実習記録の最後に綴じて担当教員に提出する。

2. 週間実習計画と内容

週	曜日	午前	午後	内容
第1週	水	実習(オリエンテーション、患者紹介、情報収集) デイリーカンファレンス		情報収集(疾患の現症と経過・治療方針)
	木	実習(看護過程)	デイリーカンファレンス	アセスメントと看護問題の抽出(関連図作成)
	金	実習	中間カンファレンス	看護問題の統合後 看護計画立案
第2週	月	学内実習	合同ケースカンファレンス	看護実践および評価 (修正、追加)
	火	実習(看護過程)	デイリーカンファレンス	
	水	実習(看護過程)	デイリーカンファレンス	
	木	実習	最終カンファレンス	*急性期の場合は患児の 症状に合わせて展開する
	金	学内実習(まとめ、記録提出)		

3. 実習記録

- 1) 実習施設名と患児名については、個人情報保護のため「A施設」、「Aちゃん」とする。
- 2) 記録類は毎日担当教員へ提出し、指導を受ける。
- 3) 実習記録は表紙から様式番号順に綴じて、学内実習最終日(第2週の金曜日)の14時までに担当教員へ提出する。
※学内実習日が祝日等の場合は、事前オリエンテーション時に指示する。

4. 学内実習

- 1) 第2週の月曜日(合同ケースカンファレンス、受け持ち事例の発表と記録整理を行う)発表事例は、当日の朝、教員より指示する。※グループで協力し学生主体で運営する。
- 2) 第2週の金曜日(記録提出)※15時より次のグループへのオリエンテーションを行う。

5. 実習評価

- 1) 小児看護学実習(Ⅱ)の実習評価表の項目に沿って総合的に評価する。
※臨地オリエンテーションを正当な理由無く欠席した場合は、単位を認めない。

- 2) 学内実習、ケースカンファレンスでは、積極性および参加度（発表、司会、記録、タイムキーパー、メンバー員）に対して評価する。
- 3) 欠席は、-2点、遅刻・早退は-1点とする。
- 4) 教員により指示された記録類をその期限内に提出できない場合、その都度-1点とする。
- 5) 原則として補習実習は行わない。

実習を行う上でのその他留意事項

1. 事前学習（小児の発達段階とそれに応じたコミュニケーションの方法、小児の組織学的発達と解剖学的特徴、疾患についての病態や治療、発達段階に応じた看護、看護技術を含む）を行っておくこと。
2. 毎日の実習記録は、臨地実習指導者・担当教員に提出する。指導を待つのではなく、疑問点は自ら質問、相談する等、主体的に学ぶ態度が必要となる。
3. 収集した情報は、実習終了後も自らの責任で管理すること。情報の漏洩および不正入手には厳正な処分を行う。
4. 学生にふさわしい服装、態度で実習に臨むこと。
5. 感染症に関しては、大学の感染症対策方針に則り対処すること。
*これを厳守できない者は臨地施設内に立入ることはできない。
6. 自己の健康管理には十分に注意し、毎日健康調査表を担当教員へ提出すること。体調不良時、服薬の必要がある場合は服薬前に必ず教員へ相談および報告すること。

※緊急時には直ちに担当教員に連絡すること。

小児看護学実習(Ⅱ)記録

[施設・病院]

実習場所			
実習期間	年 月 日 ~ 年 月 日		
大学名	九州看護福祉大学 看護学科		
学籍番号		氏名	
担当教員名			

小児看護学実習(Ⅱ)評価表

学生自己評価

実習場所

学籍番号

実習期間 年 月 日～ 年 月 日 学生氏名

項目	行動目標	配点	評価
I. 看護役割の理解 (25)	① 小児看護の特殊性を理解し述べるができる	5	
	② 小児の成長発達段階に応じたコミュニケーションができる	5	
	③ 患児と家族を中心とするチーム医療の中での看護の役割を理解できる	5	
	④ 小児科特有の検査・処置を理解し、必要な看護を考えることができる 小児のQOLを維持・向上にむけての援助を考えることができる	5	
	⑤ 患児について客観的な観察と報告(報告・連絡・相談)ができる	5	
II. 看護過程 (40)	① 患児と家族を理解するための必要な情報を意図的に収集できる	5	
	② 文献の活用により情報を分類・分析し、関連図を描ける	5	
	③ 適切な看護問題をあげることができる	5	
	④ 個別性を考慮した具体的な看護計画が立案できる	5	
	⑤ 小児とその家族に対し適切な看護を実践できる	<u>10</u>	
	⑥ 実践した看護を評価し、追加・修正できる	5	
	⑦ 実習にふさわしい態度で臨むことができる	5	
III. 研究的態度 (25)	① 学生自身の課題を明確にできる	5	
	② 倫理的配慮のもとに情報を管理できる	5	
	③ 観察した現象を正確・簡潔に専門用語を用いて記述できる	5	
	④ 実習目標に即したカンファレンスを参画・運営できる	5	
	⑤ カンファレンスの結果を今後の看護に活用できる	5	
IV. 提出物 (5)	記録物をすべて期限までに提出できる	5	
V. 健康管理 (5)	個人の健康管理ができ、体調不良時に報告できる 遅刻 日 () 時間 早退 日 () 時間 欠席 日	5	
学生自己評価		総合 得点	
項目に沿って評価する			
担当教員			印

小児看護学実習(Ⅱ)評価表

臨地実習指導者評価

実習場所

学籍番号

実習期間 年 月 日～ 年 月 日 学生氏名

項目	行動目標	
I. 看護役割の理解 (25)	①	小児看護の特殊性を理解し述べることができる
	②	小児の成長発達段階に応じたコミュニケーションができる
	③	患児と家族を中心とするチーム医療の中での看護の役割を理解できる
	④	小児科特有の検査・処置を理解し、必要な看護を考えることができる 小児のQOLを維持・向上にむけての援助を考えることができる
	⑤	患児について客観的な観察と報告(報告・連絡・相談)ができる
II. 看護過程 (40)	①	患児と家族を理解するための必要な情報を意図的に収集できる
	②	文献の活用により情報を分類・分析し、関連図を描ける
	③	適切な看護問題をあげることができる
	④	個別性を考慮した具体的な看護計画が立案できる
	⑤	小児とその家族に対し適切な看護を実践できる
	⑥	実践した看護を評価し、追加・修正できる
	⑦	実習にふさわしい態度で臨むことができる
III. 研究的態度 (25)	①	学生自身の課題を明確にできる
	②	倫理的配慮のもとに情報を管理できる
	③	観察した現象を正確・簡潔に専門用語を用いて記述できる
	④	実習目標に即したカンファレンスを参画・運営できる
	⑤	カンファレンスの結果を今後の看護に活用できる
臨地実習指導者評価		
I. 看護役割の理解		
II. 看護過程		
III. 研究的態度		
臨地実習指導者		
印	担当教員	印

小児看護学実習(Ⅱ)評価表

教員評価

実習場所

学籍番号

実習期間 年 月 日～ 年 月 日 学生氏名

項目	行動目標	配点	教員 評価
I. 看護役割 の理解 (25)	① 小児看護の特殊性を理解し述べるができる	5	
	② 小児の成長発達段階に応じたコミュニケーションができる	5	
	③ 患児と家族を中心とするチーム医療の中での看護の役割を理解できる	5	
	④ 小児科特有の検査・処置を理解し、必要な看護を考えることができる 小児のQOLを維持・向上にむけての援助を考えることができる	5	
	⑤ 患児について客観的な観察と報告（報告・連絡・相談）ができる	5	
II. 看護過程 (40)	① 患児と家族を理解するための必要な情報を意図的に収集できる	5	
	② 文献の活用により情報を分類・分析し、関連図を描ける	5	
	③ 適切な看護問題をあげることができる	5	
	④ 個別性を考慮した具体的な看護計画が立案できる	5	
	⑤ 小児とその家族に対し適切な看護を実践できる	<u>10</u>	
	⑥ 実践した看護を評価し、追加・修正できる	5	
	⑦ 実習にふさわしい態度で臨むことができる	5	
III. 研究的 態度 (25)	① 学生自身の課題を明確にできる	5	
	② 倫理的配慮のもとに情報を管理できる	5	
	③ 観察した現象を正確・簡潔に専門用語を用いて記述できる	5	
	④ 実習目標に即したカンファレンスを参画・運営できる	5	
	⑤ カンファレンスの結果を今後の看護に活用できる	5	
IV. 提出物 (5)	記録物をすべて期限までに提出できる	5	
V. 健康管理 (5)	自己の健康管理ができ、体調不良時に報告ができる 遅刻 日 () 時間 早退 日 () 時間 欠席 日	5	
教員総合評価		総合 得点	
担当教員			印

看 護 記 録

年 月 日作成
 患児愛称 男・女 歳 ヶ月 学籍番号 学生氏名

<罹患した感染症>

<予防接種>

肺炎球菌 (PCV13)	回済・未	インフルエンザ 菌b (Hib)	回済・未
4種混合 (DPT-IPV)	回済・未	麻疹・風疹 (MR)	回済・未
水痘	回済・未	日本脳炎	回済・未
BCG	済・未	その他 ()
痙攣 (有・無)	喘息 (有・無)	アトピー (有・無)	

<安静度> : フリー ・ 病棟内 ・ 病室内 ・ ベッド上

<食 事>・種類： 母乳 ・ ミルク 1回量()ml×()回
 幼児食 ・ 普通食 ・ その他 ()
 規則的 (回/日) ・ 不規則 ()
 間 食： 有 無 (回/日)

・好きな食べ物 ()
 ・嫌いな食べ物 ()

<排 泄> ・尿：(回/日)、性状 () オムツ使用(有・無)
 ・便：(回/日)、性状 () オムツ使用(有・無)

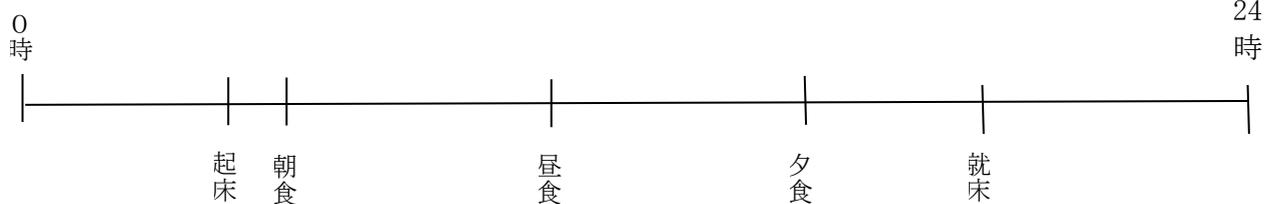
<睡 眠> : (時間程度/日) 午睡 (時間程度/日)
 ※睡眠時の癖があれば記入 ()

<清 潔> : 入浴 ・ 清拭 (回/週)

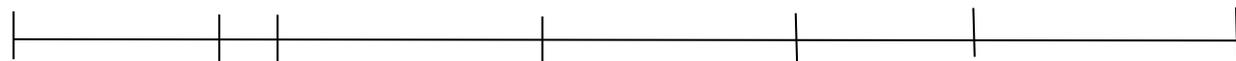
<初 潮> : 未 ・ 有 (歳)、 間隔 (日)

<その他> :

<日常生活の様子>



※入院によって生活パターンの変化があれば記入



<社会性>

・保育園 ・ 幼稚園 ・ 小 ・ 中 ・ 高 年生
 ・好きな遊び
 ・好きな科目
 ・習い事 () 回/週

成長発達アセスメント

学籍番号：

年 月 日作成 患児愛称

男・女 歳 ヶ月

氏名：

受持ち患児の情報	アセスメント
<p>1. 生育歴</p> <p>1) 妊娠経過</p> <p>2) 分娩経過： 在胎週数 週 日 娩出様式：</p> <p>3) 出生時体重 g</p> <p>4) 仮死：無・有 ()</p> <p>5) 発育状態</p> <p>6) 身長 cm (/) いつのデータかを記入</p> <p>7) 体重 kg (/) 入院期間中に体重の増減が著しい場合は、</p> <p>8) 成長評価 その経過も記入する。 指数：対象患児によって適切な指標を選択。 カウプ指数、ローレル指数、 パーセンタイル値等を使用する。 ※受持ち患児の情報として、カルテ・患児・家族より得る。</p>	<p>① 患児の「現時点」のみでなく、今までの経過を踏まえながら今後についても考える。</p> <p>② 患児の QOL を高めるために、看護上の問題や看護ケアについて考察する。</p> <p>③ 成長評価指数では、選択した根拠を示す。必要な場合は補正すること。</p>
<p>2. 発達評価方法：</p> <p>評価方法は具体的に記入(遠城寺式、日本版デンバー、横地の分類など)。</p> <p>評価法の各項目に関連する事象について、学生が観察した結果を記入すること。</p>	<p>観察した結果から「発達段階」を分析、評価し、どう判断したのかを記入する。 正常か異常かを判断し、異常であれば、レベルに応じた介入の必要性を考察する。</p> <p>① 経過観察が必要なのか</p> <p>② 看護者の介入が必要なのか</p> <p>③ 医師の介入が必要なのか</p>

患 児 ア セ ス メ ン ト (全体像)

学籍番号：

年 月 日作成 患児愛称

男・女 歳 ヶ月

氏 名：

受け持ち患児の情報	分 析 ・ アセスメント	考えられる問題
<p><医学診断名> 診断名をすべて挙げ、優先順位をつけ記載する <現病歴、既往歴、医師からの説明> 様式Ⅱ-3記載事項の必要と思われる患者情報及び学生が収集した情報を記載する 既往に関しては、今回の入院に関連のあるものを記載する 児と保護者が上記をどのように捉えているかについても記載する <治療>現在の治療 <検査>検査の種類ごとに分類して記載する <現症、主訴> T・P・R・BR (/) を含む 児と保護者が上記をどのように捉えているかを記載する <栄養、代謝>水と電解質の摂取と吸収 <排泄>泌尿器系・消化器系・外皮系・呼吸器系 <睡眠> <活動、休息> エネルギー平衡、循環・呼吸反応、セルフケア <認知、感覚> 成長発達アセスメントを参照しながら情報を整理し、自己の知覚もここへ記載する <家族、環境> <その他> コーピング (児・保護者)、セクシャリティ</p> <p>上記項目は、要項の詳細を熟知のうえ、小児の情報を分類する指標とする</p>	<p>診断名ごとに、症状などの情報をもとに患児が何故この診断に至ったかを解釈する。</p> <p>左記項目ごとに分析する。一般性との比較、患児の日常性との比較を行い解釈し、どのような問題があり、どのような看護が必要か記入する。</p>	<p>1. P：共同問題、看護問題</p> <p>E：寄与因子、原因、誘因</p> <p>S：症状、兆候</p> <p>2. P：共同問題、看護問題</p> <p>E：寄与因子、原因、誘因</p> <p>S：症状、兆候</p>

関 連 図

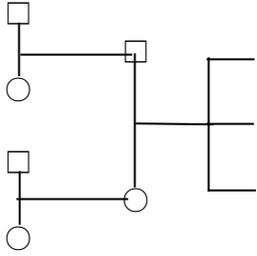
学籍番号：

年 月 日作成

患児愛称

男・女 歳

氏 名：

<p><医学診断></p>	<p>※児のプライバシーを厳守すること。 ①患児の疾患・治療・看護上の問題について。 ②児の入院によって家族にどのような変化が生じたか。 ③ソーシャルサポートの有無。 ④自宅から病院までのアクセス（町名のみを記入する）。</p>
<p><家族背景>：三世代を記入 (祖父母) (父母) (本人)</p>  <p>※同居者を○で囲む</p> <p>キーパーソン() 付き添い(有 無)</p>	
<p><交通アクセス> 自宅～病院</p> <p>自家用車 () 分 J R () 分 バ ス () 分 徒 歩 () 分 その他 () 分</p>	

看護問題リスト

学籍番号：

年 月 日作成 患児愛称

男・女 歳 ヶ月

氏 名：

抽出されたすべての問題	統合された共同問題、看護問題	修正	解決
<p>アセスメントにて抽出された問題をすべて記入する。</p> <p>① …</p> <p>② …</p> <p>③ …</p> <p>④ …</p> <p>⑤ …</p> <p>⑥ …</p> <p>⑦ …</p>	<p>左記の問題を統合した後、優先順位を考慮し、共同問題もしくは看護問題を記入する。</p> <p>* 優先順位を考慮すること。</p> <p>P：共同問題、看護問題</p> <p>E：寄与因子、原因、要因</p> <p>S：症状、兆候</p> <p>例) ①、②、④を統合し、PC 1 …</p> <p>③、⑦を統合し、# 1 …</p> <p>⑤を、# 2 …</p>		

看護プロセス

学籍番号：

年 月 日 計画作成

患児愛称

男・女 歳

氏 名：

<医学診断>	< 問題 >
--------	--------

<看護目標> 長期目標： 短期目標：

実施 月日	看 護 計 画	実 施 (結 果)	ア セ ス メ ン ト	修 正	解 決
	看護問題に基づいた、看護計画の立案 O－P T－P E－P にそれぞれ分けて記載する	観察した内容、実施した看護ケアや関わりの結果、患児の反応、家族の反応について時系列に沿って記入する。	① 観察、看護ケアの結果からこの問題について考察する。 ② 自分の行った看護について文献を用いて考察し、計画の追加、修正を行う。 ③ 最終的に看護目標が達成できたか計画の評価を行い、看護を振り返る。		

経過表

年 月 日		作成	患者愛称	男・女	歳	学籍番号	学生氏名	
曜日								
月 日								
BP	R	P	T					
VΛ	○	●	×					
160	50	140	40					
140	40	120	39					
120	30	100	38					
100	20	80	37					
80	10	60	36					
60	0	40	35					
食事の種類								
食事摂取量	主							
	副							
輸液量								
排便回数								
排尿回数/尿比重								
清潔の援助								
睡眠の状態								
輸液(水分出納)								
*上記欄は、自由に使用してよい(特に重視していた観察項目等)。								

臨地カンファレンス記録(第 回)

日時	年 月 日 曜 時 ~ 時	実習場所
出席者	(指導者)	
	(学生)	
カンファレンステーマ:		
テーマを選択した理由:		
<p><記入方法> グループの話し合いの流れを、発言の順番にまとめて記入すること(誰が、どのような発言をしたのかの記入は不必要)。</p> <p><記入する順番></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グループでの話し合いの結果 2. まとめ 3. 臨地実習指導者(スタッフ)のコメント ※重要なので、書き漏らすことがないようにする。 4. 担当教員のコメント 		

外 来 ・ 病 棟 看 護 記 録

担当 Ns :

年 月 日 曜日	実習場所 :	学籍番号	学生氏名
診 療 環 境	看護師の援助・行為の内容、看護師の役割、患児の反応	考 察 (時間・空間・利便性・プライバシーなど)	
<p>外来部門の環境整備の状況や、特徴、各種教室の状況などについて記述する。</p> <p>① 色彩 ② 温度、湿度 ③ 照度、照明、窓 ④ 外来の設備、備品 ⑤ ポスター、パンフレット ⑥ 待合室 ⑦ 処置室 ⑧ 診察室、ベッド ⑨ 検査室 ⑩ 面接室 ⑪ 廊下、トイレ ⑫ プレイルーム</p> <p>病棟看護では、 ①患児の概要 ②看護の場所 ③処置等の目的</p>	<p>外来看護師の援助の具体的な場面や、状況を記述する。</p> <p>診療時の介助、あるいはセルフケアへの支援や、倫理的配慮について記述する。</p> <p>患児の反応についても詳細に記入する。</p> <p>看護師が、患児にどのように関わっているのか。チーム医療において、看護師はどのような役割を担っているか記入する。</p>	<p>左記についての目的や意義、支援の効果について記述する。</p>	

実 習 計 画		
年 月 日 (実習 日目)	学籍番号	
	氏 名	
実習目標		
実習計画		
時系列に沿って、具体的な計画を記載する		
根拠は述べるができるようにしておくこと 指導者との調整、指導により変更になったものについては 色を変えて記入する		
実習の振り返り		
<実習からの学び> 指導者からご指導頂いたこと、ご指摘頂いたこと、質問を受けたこと等		

小児看護学実習 実習施設一覧

	施設名称	郵便番号	住所	電話番号
1	社会福祉法人 志友会 くまもと芦北療育医療センター	869-5461	熊本県芦北郡芦北町大字芦北 2813	0966-82-2431
2	社会福祉法人 志友会 くまもと江津湖療育医療センター	862-0947	熊本市東区画図町重富 575	096-370-0501
3	熊本市医師会 熊本地域医療センター	860-0811	熊本県熊本市中央区本荘 5 丁目 16 番 10 号	096-363-3311
4	熊本赤十字病院	861-8520	熊本県熊本市東区長嶺南 2 丁目 1 番 1 号	096-384-2111
5	国立大学法人 熊本大学医学部附属病院	860-8556	熊本県熊本市中央区本荘 1 丁目 1 番 1 号	096-344-2111
6	国家公務員共済組合連合会 熊本中央病院	862-0965	熊本県熊本市南区田井島 1-5-1	096-370-3111
7	独立行政法人労働者健康安全機構 熊本労災病院	866-8533	熊本県八代市竹原町 1670	0965-33-4151
8	地方独立行政法人くまもと県北病院機構 公立玉名中央病院	865-0064	熊本県玉名市中 1950	0968-73-5000
9	玉名市立玉名第一保育所	865-0051	熊本県玉名市繁根木 147	0968-72-3032
10	玉名市立伊倉保育所	865-0041	熊本県玉名市伊倉北方 2915	0968-72-2497
11	玉名市立豊水保育所	865-0047	熊本県玉名市川島 629-2	0968-76-0201
12	玉名市立高道保育所	869-0203	熊本県玉名市岱明町浜田 501	0968-57-0614
13	社会福祉法人 敬愛福祉会 敬愛保育園	865-0065	熊本県玉名市築地 2509	0968-72-3229
14	社会福祉法人 せるふねっと 21 おおくらの森保育園	865-0023	熊本県玉名市大倉 1503 番地-1	0968-74-1531
15	社会福祉法人 玉名ゆりかご保育園	865-0016	熊本県玉名市岩崎 82	0968-73-8674
16	社会福祉法人 法輪会 慈保育園	865-0055	熊本県玉名市大浜町 919-1	0968-76-0189
17	社会福祉法人 法輪会 ちどり保育園	865-0055	玉名市大浜 4813 番地	0968-76-0583
18	社会福祉法人 緑風会 玉名くすのき保育園	865-0064	熊本県玉名市中 1908-1	0968-72-3277
19	社会福祉法人 緑風会 ぬかみね保育園	865-0066	熊本県玉名市山田字糖峯 1836-157	0968-73-4342
20	社会福祉法人 旭保育園	861-4101	熊本県熊本市南区近見 6 丁目 11 番 11 号	096-352-3940
21	社会福祉法人 同胞友愛会 友愛会保育園	860-0076	熊本県熊本市中央区壺川 2-1-57	096-355-6623
22	社会福祉法人 やまきた保育園	869-0313	玉名郡玉東町上白木 191	0968-85-2229